



意見交換や質疑応答などが行われた＝26日夜、新宮市立緑丘中学校

県教委交え意見交換

「県立高等学校の今後の在り方」懇談会

新宮市PTA連絡協議会

新宮市立緑丘中学校で26日夜、「県立高等学校の今後の在り方」に関する個別懇談会があった。新宮市PTA連絡協議会（市P連、金田有史会長）が県教育庁の清水博行・教育企画監らに高校再編に関して集約した意見を示したほか、濱口太史県議も交えて質疑応答や意見交換を行った。

新宮、新翔の両校統合も視野に入れた和歌山県立高校の再編問題。市P連は17日、臨時役員会を開き、各校育友会の声を集結。県教委に提出するために意見の集約を行っていた。

市P連がまとめた意見は▽ICT教育（オンラインなどを含む）の充実▽生徒が地元就職できるなどの専門的な学科（社会福祉系・土木・建設・商業・看護・農林・

水産・観光・スポーツなど）の設置▽30人以下のクラス編成（学びの多様性や個に応じた学び、進学クラスや低学力生徒への対応、専門的な教員数の充実）▽クラブ活動が活性化できる再編▽高等学校再編だけの考えではなく、それに関わる新宮市の現状を大きく捉えながら、連携して取り組んでほしいなど。

金田会長は、特色が違いう二つの学校が一緒になるのが不安であるといった意見もあるとし「地域の声を聞いていただき時間をかけて丁寧に。情報を開示しながら進めてほしい」と求めた。

清水教育企画監は「新宮高校と新翔高校を単純に足すのではなく、個々に変えていかなければならないと思っている。その上で新しい学校をつくることができれば」となどと返答。理解を得るためには見える形で写真真を示すことが大事とした。

濱口県議は「消極的な話になりがちだが、積極的な話の中で皆さんの意見が聞けた。建設的な話し合いを重ねて、子どもたちが進学する高校に対して希望が持てるようなものにしていければ。意見や話し合いを続けることで理想的なものになると思う」。

市P連はこの日の懇談会を終えて「丁寧な説明で分かりやすく、納得がいくものだった。これからも意見や要望など挙げ

ていけたら」と話していた。

県教委は各地域から寄せられた意見を基に12月末までにプログラム案を作成。パブリックコメントを募集し、来年3月末の完成を目指し再編整備実施プログラムを作成していくとしている。

（西久保勢津子）